

新情報システム導入検討

阪神港 来年度中に試験運用

近畿地整局

【兵庫】近畿地方整備局は2月19日、阪神港における新港湾情報システム「CONPAS」導入に向けた検討会を開き、2020年度中の試験運用に向けて議論した。(黒須晃)

CONPASは横浜港で試験運用を重ねているゲート処理などの効率化を図るための港湾情報システム。トラックの事前予約システムなどを備えており、待機時間の削減が期待される。検討会は、コンテナ輸送の効率化、生産性向上に向け、阪神港(神戸港、大阪港)での導入を目指して開かれた。

近畿地整局港湾空港部の安部賢部長は「CONPAS

Sは横浜港で実証が行われており、今後は全国に本格展開するステージに入った。阪神港で導入されれば、西日本から広く集貨できるだけでなく、一層効率的なサービスを展開できるようになる」とあいさつした。その後、コンテナターミナル(CT)ゲート前の混雑解消、待機時間の削減といった横浜港における試験運用の概要を説明。阪神港では、携帯端末にCT内の

行き先を表示させたり、通したりする機能や、アプリ関状況を把握した上で配車の追加を検討した。

今後、携帯

端末に搭載する機能の妥当性やアプリの使いやすさについて、意見聴取を行った上で、20年度中の試験運用を目指していく。

横浜港におけるCONPASの試験運用の概要を説明

